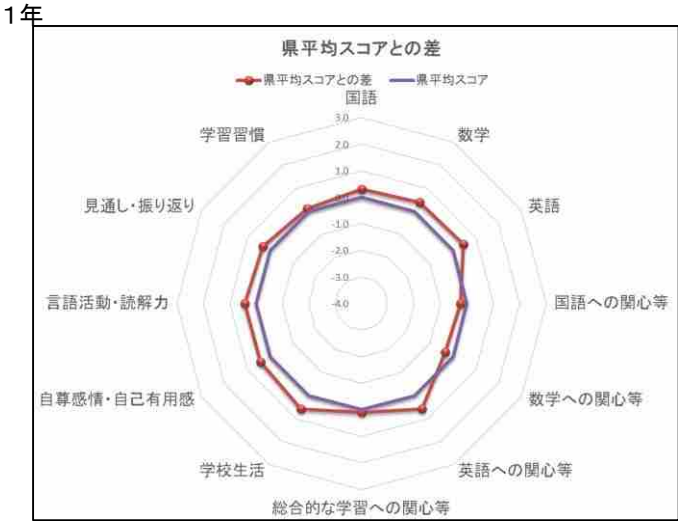


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立玉湯中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
1年	国語	○平均正答率が全ての領域で県平均を上回っている。特に、小学校配当漢字の書き取りについては日々の取り組みの成果だと考えられる。 ●国語への関心が低い。 ●文章の表現について、自分の考えをもって読む力をつける必要がある。	・日常生活の中の話題について紹介したり報告したりする中で、お互いに質問や助言をしあう活動を取り入れていく。 ・さまざまな形態の文章を読み、その表現の工夫や効果についてお互いの考えを聞き合うような活動を行っていく。
	数学	○数と式、図形、関数領域については、基本的な力は概ねついている。 ●数学への関心が低い。 ●既習事項を総合的に活用して考えていくような問題、様々な考え方により、深く考える必要がある問題の正答率が低い。	・正答率の低い問題を、重点的に取り上げ復習する。 ・日常生活の事象に、数学を結びつけて考えさせたり、楽しみながら学べる工夫、視覚支援を充実させていく。 ・グループ学習を活用し、他の人の考え方を知ったり、話し合ったりすることで問題を解くことにつながるような授業展開を工夫する。
	英語	○全てのカテゴリーで平均正答率が県平均を上回り、基本的な力はあると考えられる。 ○英語学習への関心の高い生徒が多い。 ●外国語表現の能力をみる問題[条件英作文等]の正答率が低く、対話を読み取り適切な英作文を書く問いは無回答率も高い。	・基本的な語彙や定型文の習得をねらった小テスト、グループやペアでの会話活動は、これまで通り常活動として継続する。 ・学年が上がっても、興味を持って学習に取り組めるような教材や授業展開を工夫する。 ・外国語表現の能力、特に書くことに重点をそぼった単元計画や活動を考え、きめ細かく指導する。
2年	国語	○平均正答率が全ての領域で県平均を上回っている。特に、小学校配当漢字の書き取りについては日々の取り組みの成果だと考えられる。 ●人の意見の共通点や相違点を整理しながら、目的に沿って話し合う力をつける必要がある。	・文法学習については、1年生からの既習事項を小テストという形で毎時間復習しているので、それを継続することによって定着を目指す。 ・日頃から行っているグループ学習の中で、自分の考えを発表することとあわせて、相手の発言に対する感想だけでなく質問をするような活動を増やしていく。
	数学	○数学への関心が高い。 ○計算分野の単元では小テストを定期的に行うことで、平均正答率も高くなっている。 ○数学的な見方や考え方を深める問題をグループ学習等を取り入れながら解いてきた結果、問題解決の方法を数学的に説明する問題での正答率が県平均と比較して高い。 ●活用問題における無回答率が高い。	・小テストなど、生徒の理解度を定着していくための授業の手立てを引き続き工夫していきたい。 ・授業の中で応用的な問題に取り組む際に、グループやペア学習の中で、教えてもらうのを待つだけでなく、個人で考える時間を十分にとっていく。
	英語	○全てのカテゴリーで平均正答率が県平均を上回り、基本的な力はある。語彙や語法の基礎的な知識の習得ができている生徒が多い。 ○学習への関心が高く意欲的に英語で表現しようとする生徒が多い。 ●県平均を上回ってはいるが、領域の「書く」、観点の「表現」に関わる問い、即ち対話を読み取り適切な英文を書いたり、条件に合わせてまとまりのある英文を書く問いの正答率が低い。	・基本的な語彙の習得、表現力をつけるためのミニトーク等の常活動を今後も継続する。 ・自ら発信するような、自己表現活動を通して、既習の語彙や語法を用いて正しく表現する力をつける。 ・条件英作文の正答率は高くはないが、無回答率は低いので、自分の考えを書こうとする意欲を伸ばす活動を今後も多く取り入れる。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

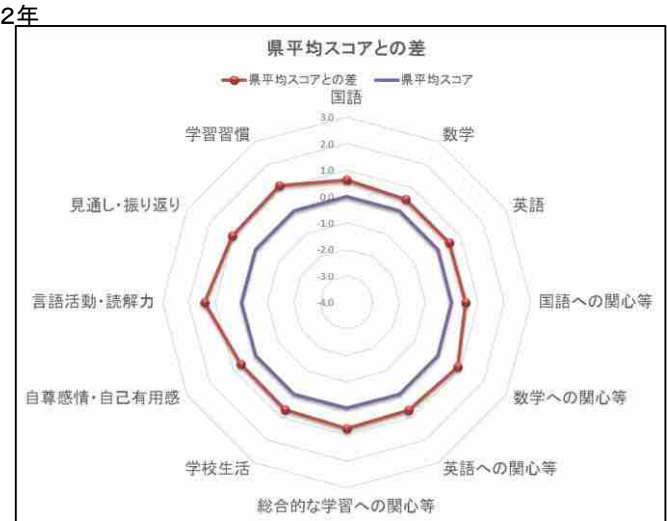


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	73	47	72
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 54 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	77	52	66
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 52 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
1年	授業改善に関わる事項	○授業の中で、話し合う活動を多く取り入れることで、自分の考えを発表する機会も増え、思考を深めるのに役立っている。 ●授業の最後に学習したことを振り返る活動が、十分ではない。	・授業の最後に、振り返る時間を確保し、家庭学習の課題にもつなげていく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習をする習慣は、おおむね定着しつつある。 ●家庭での学習で、授業の復習をする時間が少ない。	・効果的な復習の仕方について、アドバイスをを行い、単に反復練習のみの課題ではなく、次回の授業に結びつくような、思考をとまなう課題を工夫する。
2年	授業改善に関わる事項	○グループ学習ガイダンスや各教科の授業等でその意義やねらいを理解させることで、グループ学習に対する肯定的な回答が多い。	・取組を今後も継続していき、より主体的な活動につなげていく。
	家庭学習に関わる事項	●宿題はきちんとできているが、自主的に予習や復習をしている生徒の割合がやや低くなっている。 ●計画的、自主的な家庭学習ができている生徒の割合が多少低い。	・予習、復習の大切さやメリットを伝え、意欲を高める。 ・効果的な学習の仕方と併せて、計画的に家庭学習に取り組むよう指導する。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

